THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

Osaka, July 15th, 1954. No. 271.

關西大學學報

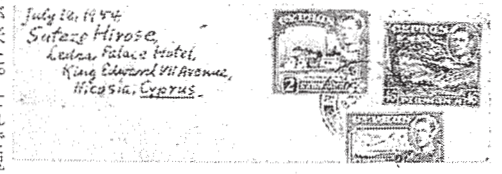
第 2 7 1 号

昭和29年7月

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
通巻第二七一号
昭和二十九年七月十五日発行（毎月一回十五日発行）

（槍の頂上目指して　本学山岳部）

關西大學學報局



海外研究員だより

オリーブ山とゼッセマネの園

廣瀬捨三

（イエルサレム通信）

聖都イエルサレムへはかねがね行きたいと思つていたので、ヘブル大学へ依頼状を出したところ、折返し昨年末返事が来た。それで兎も角旅券にイスラエル国が加えられたが、帝国ホテルのエジプト公使館へ行くとビザをくれない。アラブ諸国の申合せでイスラエル国に行く者はアラブ諸国に入れないことになつている。行く意志がないなら旅券のイスラエルを消して貰つてくるようにとのこと。外務省でイスラエルを消して貰つて、その代りトランス・ヨルダン経由を加えてくれた。イエルサレムは今日イスラエル国とヨルダン国に両分されていて、聖書の旧蹟は却つてヨルダン側にあるからと外務省で教えて貰つて、それならばこの未知の国へ乗込まうということになつた。バグダードでエール・フランス会社に頼んだら、シリヤとレバノンはビザを取つてくれたが、この国は駄目。エール・フランスのマネヂャーは今日この国はもうトランス・ヨルダンではない、ヨルダンだと。成程その通りでヨルダン河を越してしまつている。今度はレバノン国のベイルートへ来てからヨルダン国大使館へ無駄足をふむこと三回お釈迦様以上で四回目にやつとビザをくれた。

そんなわけで余程排他的なうつとうしい国だろうと、ベイルートの自由な空気を吸つている自分はいささか恐れをなして六月十八日ベイルートよりイエルサレムへ向つたのである。左手に死海が見え、機はやがてイエルサレム空港に着陸。降りると「観光客歓迎、政府観光係」の英文の貼紙あり。係の美人が出てきて早速この国の観光地図をくれた。荷物の検査も何もない。その代りガイドが早速とうるさくよつてくる。案に相違の入国風景であつた。

イエルサレムの旧市街は城壁で囲まれた一キロ四方もない程の小さなもので、石の煉瓦を積重ねた家、教会、回教寺院がひしめきあつて、宛ら岩窟の街である。街幅は狭く、通りは起伏していて、スーク（商店街）が縦横にある。東にモリヤ岡あり、昔ソロモンが神殿を建てたというが、今は回教寺院の「岩のドーム」がある。天然の大岩の上に建てられたもので、昔アブラハムが子イサクを犠牲に捧げようとした岩とのこと。この境内から東を見ると、キドロンの谷をへだてて、「主は祈り給う」ゼッセマネの園にオリーブ山が正面に見え、ヘブル大学、英国兵墓地などがその左手に見える。右手はキドロンの谷が南へ廻つて、この旧市街を囲み、ヒンノムの谷（ゲヘナの谷）へ続き、イエルサレムの歴史的なパノラマが一望のもとに展開される。ヘブル大学などは国連管理地域で、指呼の間に望見し乍らもここからは行けない。又旧市街西方に近代建築の櫛比する新市街があるが、イスラエル国に属していて、交通遮断である。旧市街北方に僅かに開けた新市街あり、ホテルも大抵この地域にあつて道幅も広く舗装も出来ているが、谷をへだてた北方が国連区域である。交通の要所には大低先の尖つた円錐形のコンクリートの塊が数箇転がしてあり、いざという場合にはイスラエルのタンクを防ぐ為だという。いやはや物騒なことだ。

イエルサレムから南へベッシヘルム、ヘブロン、北へナブラス、サバステと行つたが、この南北の線は一帯の高地続きで赤茶けた土の岩山で、オリーブ、無花果の樹などが生え、葡萄畑、麦畑があり、羊、山羊を放牧している。日中は流石に暑いが、夜は涼し過ぎる位である。イエルサレムから東へベタニイ、親切なサマリヤ人の宿（といつても今日交番があるだけである）を過ぎると風物は次第に荒涼たるもので、ユダ山は岩山である。この辺りから海面下になつて死海の平野に下るのである。エリコの街やヨルダン河流域が僅かに木が緑に繁つてゐる。ヨルダン河に架してある鉄橋を越えて歩むこと数歩だけが私のトランス・ヨルダンだつたので、ヨルダン以東は知らない。死海の平野に入ると熱風吹いてバグダードを思い出した。冬は暖かでいいさうだ。死海では海水浴をしてきた。体が浮上つて沈まない。

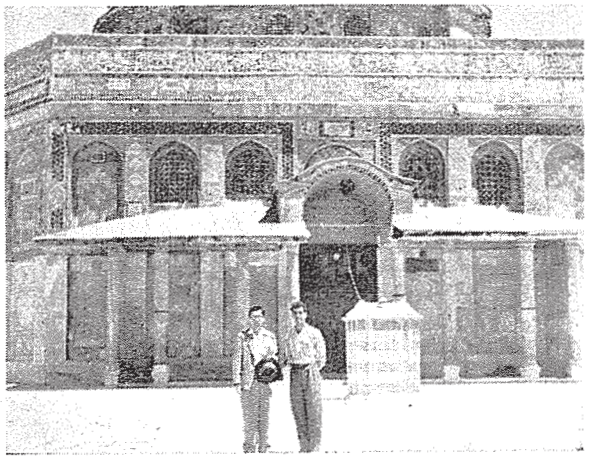
回教寺院は既にダマスカスで立派なのを見たが、バグダードでは未だ外国人を入れず、近所の家の屋根からのぞく始末で、又ちやんとさうして見料を取るように出来ていたが、この国へ来ると大びらに見料を取つて見せてくれる。所謂偶像がないものだから、何処を拝んでいいのやら判らず、私などはきよろきよろ見まわすだけである。ダマスカスでは聖ヨハネの墓、ヘブ

ロンではアブラハム、ヨセフ、サラ等の墓というのが回教寺院内になつていたり、黒衣に金の縫取りのあるのが棺らしいものに被せてある。これはバグダードの王室墳墓宮殿を拝観した時も同じであつた。

そこへくるとここにあるキリスト教教会はまさに偶像崇拝の最たるものといえる。神が三位となり、聖母マリヤに聖者と拝むものがいくらでもある。日本に於ける殺風景な教会を見ていた目にはこの国の教会の美しさは仏教美術をも思い出して驚異であつた。仏教の御堂の金ピカに非常に似通つたものがある。信仰心を起したかどうかは別問題だが、教会のこれでもかというあらゆる善美さをこの国の主な所で見せつけられた。強烈な光線の外から一歩御堂に入ると、外の光線は色ガラスを通して柔げられ、周囲にはキリスト処刑の額縁が十何枚とあり、祭壇には等身大のキリスト、左右には聖旨の像、更に地下へ行けば又御燈明に照らされた十字架があるといつた具合で、ここの教会は多角的立体的とでもいおうか。イエルサレムの聖墓寺などはその典型的なものだ。

一体私は日本に居ても過去の遺物をあまり見に行つたことがないのに、今度はどうしたことか、世界を廻つて過去の遺跡残り物を見歩くことに相成つたのである。その土地土地の博物館も見たが、何処でも一番多くあるのは葬式用具に、人骨、石棺であるのにはうんざりする。レバノンのベイルートにある国立博物館の地下室はさながらの墓場でスキッチ一つ押すと石棺やずらりと並んだ等身形の棺が照し出されてそぞろに寒気を催した。これからエジプトへ行けばピラミッドというような最大の墳墓が見られる。尤も面積の点では私の家の近くにある仁徳陵の方が大きい。ここのパレスチナ考古博物館も御多分にもれず、石器時代からの人骨がある。それよりも楽しみなのは稚拙なアスタルテ女神の粘土の小さな像が乳房を両手で持つていたり、子供を抱いたりしているのと並んで、優美なヴイナス像があることだ。ここの博物館にはヘニデ王時代の二尺位の首のないヴイナスの石像があつたがなんともいへない程よかつた。記念にと思つたのにこの絵葉書は売切れだ。この地中海東部を巡つているのは一つには私はヴイナスの故地を求めているのである。

シリヤのダマスカスでもレバノンのベイルートでも博物館の説明はフランス語とアラビヤ語だが、ここでは英語、アラビヤ語、ヘブル語でついている。尤も何処でもタイプで打つた詳しい説明書があつて観覧者がそれを借りて見歩ける。これは英文のが何処でもある。



（岩のドームの前で）

ここの博物館は平日は百フイルス（約百円）、金曜日は二十フイルス（約二十円）なので、私は又金曜日に観に行つた。

ここの番人にはシナ人かと尋ねられたが、日本人だというと、アメリカに占領されているのかという。ホテルでは同宿のインド人にフイリッピン人と間違えられた。土地の学生などは皆アメリカから来たのかと尋ねる。シロアの泉へひとり行つた時など土地の者がたかつてきてユダヤ人かというのには驚いて、旅券を見せると、納得してここの巡査がお前を間違えて銃で打つたらいかんから俺が送つてやると城壁のところまでついてきてくれた。少し先がもう立入禁止区域なのである。それからは恐れをなして南へは出ない。こんなことはこれ一回きりであとは平気で何処でも歩いている。却つてガイドがよつてきてうるさい位である。

ベイルートにいた時英字新聞にここの首都アンマンで学生が反政府反米のデモをしたと報じていたが、ここの城壁外によく英語のリーダーをよみ乍ら歩いている学生がいるが、この一人はこの国には、Civilizationはない、Colonizationだといつている。いづくも同じ三等国の悩みである。夕日に照らされたオリーブ山とその南部の荒涼たるユダヤ人墓地を眺め乍ら別れた。ヘブル文字の墓石など今は破壊されて転つている。それと対比して国内をドライブすると到る処にアラブ難民のテント小屋集団がある。イスラエル国を追われたアラビヤ人の住むに家なき避難民である。パキスタンのカラチでも到る処にインドから逃げてきた回教徒難民のアンペラ小屋の集団があつた。パキスタン国祖の墓の近くにもその堀立小屋の集団があるのは皮肉であつた。ルクレティスの昔から宗教はかくも害悪を流しているのである。

学内報

九州各地で「關西大學の夕」

大学のP・R運動の一つとして毎年行われている「関西大学の夕」は、本年は七月二十日より三十日まで約十日間九州各地に進出し、岩崎学長をはじめ山田、矢口、植田、松原、榎本各教授、鉄井学生課長、山村職員に学生二十三名参加して、学術講演会を開き、学生の弁論、軽音楽演奏に映画などを行い、また各地の校友と親睦を重ねると共に一般大衆に多大の感銘を与えた。九州における開催地は

福岡市（西日本新聞社講堂）
佐賀市（佐賀新聞会館）
長崎市（長崎東高校）
熊本市（太洋百貨店）
鹿児島市（公民館）
宮崎市（教育会館）
大分市（教育会館）

等で、学術講演は左の通りであつた。

民主主義の限界　学長　岩崎卯一
日本社会と西欧社会　教授　矢口孝次郎
法の見方について　教授　植田重正
ハムレットと幽霊　教授　榎本金次郎
デフレーションと長期経済政策　教授　松原藤由

（佐賀市における学術講演会）

各學会で夏期講座開催

ドイツ語講座は関西独文学会主催で七月十三日より八月三日まで天六学舎で開かれ、本学より上道、福本、見次各教授出講、

万葉夏季講座は八月一日より三日まで天六学舎で開かれ、本学より沢潟、吉永両教授出講

日本文學夏季講座「古典を聞く」は七月二十三日より二十八日まで天六学舎で開催、本学より島田教授、山脇講師出講。

學会出張

◎文学部藤本是助教授は七月十七日より八月十五日まで東京大学における哲学会及びアメリカ研究セミナー聴講の為出張

ベイルートではここへ立つ十八日の朝日本綿花の笠井さん（この人も大阪の人）に会い、ベイルートでは日本人三人いるとのことであつた。イエルサレムには流石に日本人は誰も居らぬらしい。笠井さんの話では昨年までこの国は日本人を入れなかつたとのことで、笠井さんはアンマンへもイエルサレムにも来たことがあるとのこと。ここへ来てすぐこの国と日本とが外交関係を結んで二、三ケ月後にはアンマンに公使館でも開かれると聞いた。ダマスカスには既に公使館があるそうだ。私がこの旧市街の化粧品屋に出ていたセルロイド製の象を百フイルス（約百円）で買つて帰りホテルでよくみるとその腹にMADE IN JAPANとあつたさらばイエルサレム。明日はカイロへ立ちます。故国の皆様御機嫌よろしく。（昭和二十九年六月二十七日夜ヨルダン玉国イエルサレム、アザハラ、ホテルにて）

經濟學会の動き

経済学会では新会員制度の採用と共に新しく学生会員に対する学術講演会を定期的に行うことにし、その第一回定例学術講演会を左記の通り開催

日時　六月二十三日（水）午後一時より
会場　経商学舎講堂
講師と演題　英国の大学　教授　矢口孝次郎

また学生会員中希望者約十五名は東井講師、柏尾講師に引率され、七月一日（木）午後一時より吹田市の朝日麦酒株式会社吹田工場を見学した。

経済学会例会は七月二日（金）午後二時より経商学舎会議室にて開催

報告者と論題
1、経済成長と展開　経済学部助手　高本昇
2、投資の短期的作用と経済構造　商学部教授　安田信一

経済学会第二回定例学術講演会は第二部の学生会員に対しては左記の通り開催

日時　七月五日（月）午後六時三十分より
会場　天六学舎講堂
講師と演題　デフレーションと長期経済計画　教授　松原藤由

七月二十四日の経済学会例会は経商学舎会議室で開催。

報告者と論題
1、G・O・メイの償却論　商学部助手　清水宗一
2、朝鮮古代の馬について　経済学部教授　鋳方貞亮

槍登攀記

平井三朗

高岳峻嶺へ――壯厳の極致と悠久の自然とを藏する山への思慕は学生時代から今日に至るまで心の奥底に消すことなく持ち続けている。山と云えばいつでも快よい響きが心の琴線に波打つて来る。学窓を出てからは山に向ふ機会が実に少ない。今年は幸にして山岳部主催の夏山リクリエーション北アルプス登高に松原教授を初め三十数名の学生諸君と行を俱にすることの出来たのは誠に愉快であつた。アルプスの山開きをして間もない精かまだ登山客も少なく、列車も通路に座禪したり、立ちん坊したりしなくて楽く に松本駅に着くことが出来た。先行の藤田君達によつて上高地までのバスが用意されていたので、上高地までは全く行楽気分で行けるのである。吾々の学生時代には島々から十貫のリュックを背負つて日本三大峠の一つである徳本峠を喘ぎ越えて白沢に降り明神の池を経て上高地に出たものであるが、今はその必要もない正に今昔の感に堪えない。松本を出たバスは一路島々を経て梓川の清流に沿つて進む。途中の景色は誠に佳い。新緑の谿谷が迫り、断崖あり、奇巖あり、川岸に熱湯の落下、川底に湯煙を上げる等旅情を唆るものが多い。坂巻温泉、中の湯からクリエーション北アルプス登高に松原教授を初め三十数名の学生諸君と行を俱にすることの出来たのは誠に愉快であつ

（槍を背にあと一息　殺生小屋へ二時間半の地点）

た。アルプスの山開きをして間もない精かまだ登山客も少なく、列車も通路に座禪したり、立ちん坊したりしなくて楽く に松本駅に着くことが出来た。先行の藤田君達によつて上高地までのバスが用意されていたので、上高地までは全く行楽気分で行けるのである。吾々の学生時代には島々から十貫のリュックを背負つて日本三大峠の一つである徳本峠を喘ぎ越えて白沢に降り明神の池を経て上高地に

プルアスに第一歩を印する。

天下の名勝地上高地――化粧柳の花が微風に流れ、小梨の白い花が新緑の中に明るく浮き出る頃から梓川を囲む全山が紅葉に燃え立ち、穂高が新雪の粧に輝く頃までは誠に美しい天下の楽園観光地であり、夏尚ほ炬燵の欲しい位の涼しさと万年雪を水源とする梓川の清流、ゴツゴツした岩峯を聳立させた穂高の連峯を物やわらかく目にしみ入るような緑で包み、処々に点綴する湖沼や可憐な高山植物と下界には見られぬ綜合せられた一大風光美が人々を惹きつけるのである。

河童橋を渡り、畔りの白華荘で休憩、昼食、愈々槍ケ岳に向つて進発する、道は梓川に沿つて亘々として森林帯を辿り一時間にして着く明神の池は穂高神社のある処静寂そのまゝの神域、天与の大庭園、丸木舟を操る外人の姿が目を惹く。北アルプスの草分け喜門次爺さんの小屋には手打そばの看板が出ていて懐しい。明神奥又の岩峯を眺めながら足どりも軽く鶯の美声に心を魅せられながら徳沢を経て槍、穂高えの分岐点である横尾山荘に着いたのはまだ陽も高い頃であつた。山の第一夜をこの山荘で過ごすのである。野天風呂やランプの世界にもまた捨て難い興趣が湧く。

五時起床、冷えきつた梓川の清流に顔を洗ふと心身ともに曉の大気にとけ澄みて鮮やかな山の朝が静かに明けて行く。今日も亦好天気に恵まれる。一の俣、赤沢の岩小屋を過ぎ槍沢ヒュッテに着いてひと休み、槍沢から万年雪の雪渓が続き。登りも急になつて来る。雪渓を登りつめ、岩肌を一歩一歩刻みながらの殺生小屋までは一寸辛い三時間半ではあるが、眼前に聳えたつ槍の穂先に惹きつけられて急坂な雪渓もジグザグに除々に間隔を縮めてゆく。雪渓上は天衣無縫の冷蔵庫内の散歩、足はキャンデーになりかゝり、ピッケルで砕いて千古の雪を舐める。雪渓の水湧く処でまたひと休み、握飯一つだけ食べることを許される。S君が冷泉にほり込んだフルーツの罐詰は誠に美味、舌鼓を打つ、下界人の知らざる味である。槍の壯大な姿は依然として目の前にあるが登つても登つても中々近づけないような感だ、遥々たる足の運びでも遂に七月十四日の十二時五十分殺生小屋に辿りついた。

こゝは今宵の宿舎なので荷物をこゝにおき残りの握飯を食べて休憩後、二時より軽装して愈々槍の穂先に向つての登頂である。先づ肩の小屋に辿りつき、座して動かざる約一〇〇米の一大岩峯に三段構えの鉄鎖に縋りながら懸命の力をこめてよじ登る。頂上は二十名をやつと容れる狭さである。頂上の展望は素晴らしい。北、中央、南と全アルプスが恰も槍ケ岳に朝宗するかの如くに展開し富士山も仄見える。アルプスの青い風、白い雲、見降ろす谿谷の緑の樹海が燦々たる日射しに照り映えている景観は正に天下の絶景だと叫びたくなる。よくも来つるものかな……。一同学歌を高々と斉唱して尚去り難き感を残しつゝ槍の穂先から一歩一歩と降り始める。登る時よりも一層困難な姿である。然し三一八〇米の槍ケ丘の頂上を極めることに依つて目的の大半は達したのである。

近時日本アルプスが益々俗化しつゝあることは寒心に堪えない。山は飽まで神聖であるべきだ、と云つて大衆化を排するものではない寧ろ山が一人でも多くの人に理解され、親しまれ愛され生きる明日えの楽しみとして登る人の殖えることが何よりも望ましいことである。

学生

園田選手（陸上競技部）三種目に優勝

全日本學生陸上對校選手權大会で

七月十七・十八両日岐阜県営競技場で行われた第二十三回全日本学生陸上対校選手権大会において、陸上競技部の園田裕四郎選手は走幅跳、三段跳、高障害の三種目に優勝し、ちょうど第一回大会（昭和三年）に織田幹雄選手が出したのと同じ成績を横立し最優秀選手賞を獲得した。成績左の通り

△走幅跳　7メートル39
△三段跳　15メートル23
△百十メートル障害　15秒3

なお同選手は昨年夏西独ドルトムントにおける学生オリンピックや本年春フイリッピン・マニラにおけるアジア大会に派遣され大いに活躍した。

なおこれについて七月十九日付朝日新聞は次のように評している。

話題を集めた園田の活躍はいってみれば身につけた馬力とスピードの賜物であって、どの種目をやるにしても根本はスピードであることを身をもって垂範したものであつた。今の三段跳はただスピードと馬力だけで跳んでいるのだからフォームをまとめるべき日をかしさえすれば、その跳躍は15メートル40－50の世界的な線へ伸びることは必定であると思われる。

夏期各部のスケジュール

夏季休暇に入って、学友会各部は合宿に遠征に、部の強化に懸命の努力を傾けているが、その一斑を集録してみよう。

山岳部は七月十六日より一ケ月間の予定で北アルプス（富山、長野県）へ夏山合宿に、

バドミントン部は八月三日～九日まで香川県善通寺市にて人員約三十名にて合宿の予定、

バスケツトボール部は七月十二日～二十日まで奈良学芸大にて、

体操部は八月一日～十一日まで長崎県立諫早高校にて、

航空部は七月十六日～二十六日まで香川県高松飛行場にて

ヨツト部は七月十四日～二十日まで全日本学生ヨット選手権に備へて高松市で

拳斗部は七月十九日～二十六日まで岐阜県笠松町にて合宿、

これら運動部各部の活動に対し文化、学研各部に於いては七月六日より福知山線地方遊説を行った**雄辯会**を始めとし、七月二十日より二十八日まで

千里山法律研究会では和歌山県下の法意識実態調査を行う

グリークラブは小豆島土庄高校講堂にて七月十七日演奏会を開きつゞいて七月二十日～末日まで、

茶道部、華道部が共に小豆島にて合宿

ユネスコでは八月五日～十日まで合宿セミナールとして上諏訪へ、

以上の如く運動、文化、学研の各クラブは、夏期大会や今秋の各競技や研究発表に一層の精華を挙げんがために努力をしている。

弓道部夏期合宿練習と遠征

弓道部は七月十日より七月二十四、五日の全日本学生弓道選手権大会に備えて愛媛県松山市県営弓道場に於いて夏期合宿練習を開始、参加部員は二十名、関大弓道部の名声を西国の地にとどろかせ、一週間の合練練習終了と共に十六日より各地に遠征を開始した。

十五日　松山市県営弓道場
○本　学　八四中
愛媛地連選手団　七六中
十七日　朝　大分県別府弓道場
○大分県地連選手団　七二中
本　学　六五中
十八日　朝　広島県に於いて
広島大学弓道場
広島県地連選手団　六六中
○本　学　七一中
十九日　正午　岡山県営弓道場
岡山地連選手団　六三中
○本　学　六七中

（8頁より続く）

幹　事
安国　春直　福田　勇　久次米英明
荒井　清一　佐野雄二郎　坂井　清
幾島　武夫　杉原　堯　出本　愼夫
勝本　大三　北村　忠三　三方　三好
片山　正三　高見　秀雄　田尻　芳信
尾久土敏雄　細谷吉兵衛　後藤　一秀
監　事
松島与喜三　和田　治夫

出席者（順序不同、敬称略）
来　賓　久井専務理事（大学側）
山崎　敬義（神戸関大倶楽部理事長）
向井　裕亮（〃　常務理事）
灘波　方（〃　理事）

会　員
安国　春直　荒井　精一　加藤　輝信
佐々木勝也　永田　一　大森　幸造
山本　鎮郎　幾島　武夫　津村泰三郎
中江　秀実　上田　知章　白木　勲
和田　治央　黒野　文雄　池田　一郎
富士田正芳　藤原　忠　大賀　二郎
出本　愼夫　吉田　近義　松島与喜三
岸本　恒夫　福島　敏雄　岡川　貞治
坂本　繁幸　浅利　義文　大浪　渡
増田　正　田尻　芳信　博多　誠一
席田　光嗣　高田　正直　大西忠三郎
西田　隆一　上崎　栄司　尾久土敏雄
松本　昌平　藤原　孝　福本　実
後藤　一秀　長谷川英次　森下　修三
坪田　健児　円治　秀雄　高見　秀雄
蛭田　高輝　黒田　光夫　水徳　勝
岡野重三郎

貝塚支部發会

府下貝塚市の校友は六十名に上り、年々増加の傾向にあるので、菅原正治（昭二大法）原田満（昭三大法）平沢農一（昭十三専経）三氏世話人となり貝塚支部の設立を急いでいたところ七月十日午後六時から貝塚市公会堂に於て、校友二十名参会母校から久井専務理事、岸和田、泉南各支部代表出席のもとに盛大に創立総会が開かれた。

久井専務理事の祝辞並最近母校の発展振りや拡充の抱負について説明あり、校友の自己紹介や、懐旧談に花が咲き午後九時校友会の万歳を三唱、学歌を斉唱して散会した。

尚当日寄附金につき打合せを行うと共に選任された役員は次の通りで事務所は貝塚市脇浜五二三支部長宅におかれる。

支部長　北村　専一（昭七専英）前市議長現市議
副支部長　菅原　正治（昭二大法）
〃　泉谷　与一（昭四大経）
常任幹事　〃　平沢　農一（昭一三専経）
〃　柳生　正輝（昭二七学一法）

出席者
大学側
久井専務理事　秋山校友課員
来賓　松浪　庄造（泉南支部長）　藤原　房蔵
中山　一義（岸和田支部）
支部側
泉谷　与一　岸木喜代一　菅原　正治
北村　専一　中司　文一　田中　豊次
平沢　農一　藤田　勇　松永　次郎
南川藤兵衛　明瀬　武　森田　芳郎
柳生　正輝　西　二郎　原田　満
桜田伍一郎

校友バッヂ

校友

K・U・S春期總会

風薫る五月十五日久振りに郊外へ遠征し、若葉の古都奈良に会場をうつした。快適な貸切バスにゆられ大人達は大はしやぎ、郵政寮「対山荘」に打寛いで歓談盃を重ねて旧交を温めあつた。

次の日は東大寺、法隆寺のお寺廻りも行い有意義な会合を終る。

当日出席者

学校側

久井専務理事　安井校友課長

特別会員

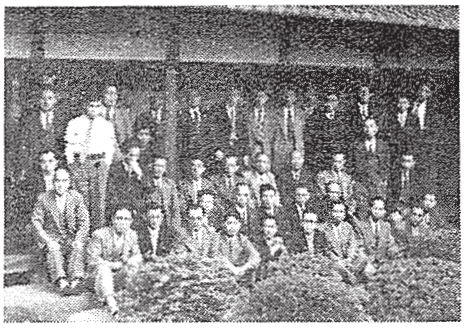
沖　鶴忠　阪部　基吉　汐月　卓一
沢岡重之助　福原　武一　石丸　豊
北村　実　井上　正臣　細川　信一
森岡猶次郎　藤田　政治

会長

井上　龍男

会員

植塚　正　宗是　信男
江指幸四郎　岡井　泰雄　服部　俊一
国兼　明　山本　健吉　長谷川博美
佐伯　博道　坂井　隆純　井上隆二郎
北野繁太郎　前田　覚　坂田　雄臣
尾形　貞延　山岡　喜良　南口　勲
宮川　治　林田　昇　友井伊三郎
福井　英治　森田　安一　小林　薫
牧田　甚生　遠藤　茂太　新居　康佑
山本武三郎　杉田　貢　大北　二郎
鍋丸　寿夫　板井　忠行　高村　清春
合田　実夫　日下部茂一郎　尾芝　久雄
和田　啓一　長岡　敏行　辻　巻



K. U. S（大阪郵政局）

佐賀支部創立總会

五月三十日（日）予ねて懸案の関西大学校友会佐賀支部創立総会を開催、会員十三名出席、経過報告、規約審議、推薦会員の承認、役員の選出、秋山校友課員より学校の近況説明後、懇談会に移り盛会裡に閉会した。

役員

支部長　永石　光雄
副支部長　平川　徳雄
幹事　橋本　進　石山　市次　原　繁
事務所　佐賀市神野町二五八　平川　徳雄方

出席者

母校側

秋山校友課員

支部側

池田　武雄　佐々木　公　御所　録朗
沢山勘兵衛　永石　光雄　樋口　武雄
平川　徳雄　前田　久男　三井所良一
石山　市次　大塚　泰助　緒方　清
原　繁

昭六会

六月四日（金）午後六時より大阪市上本町一丁目山中荘に於て春期総会を開催し、上野幹事より会の近況並びに母校七十周年記念拡充資金寄附に付いての現状と将来への発展を期すべく、更に一層の支援を懇望、又本会の会員である久井専務理事より母校将来の構想について説明があつた。

当日の出席者

有賀　司郎　足立　喜道　今井　憲夫
上野　俊彦　小野　武一　岡部　俊吾
喜田　由造　楠井　文雄　斉藤　善三
宍戸　重雄　寺山　伴嗣　中村　正次
久井　忠雄　藤井　兵蔵　福原菊次郎
松本　英男　三谷　久男　門田　文三
吉川　敬一

西宮市役所関大会春季總会

六月十二日北陸山中温泉で平山局長、竹永課長以下新入会員を交えて総勢廿二名新旧会員の親睦を図ると共に（欠席三名）今後の校友会方針について討議した。

出席者

内田　和良　竹永　昭義　桜井　正三
佐藤　明一　横谷　瞭　平山　義一
橋　実　富永　昭　山根　昭
春名　博文　喜田　敏夫　梶川喜代治
土佐木政央　井田　千治　仲東　瑋
江見　仁男　吉田　哲朗　竹中　洋一
大菊　隆司　原田　正美

豐中支部總会

六月十二日午後五時より豊中市岡町魚洗で、豊中支部総会を開催。先づ安富支部長の挨拶、岩崎学長より母校の近況と将来の抱負、久井専務理事より大学の充実と千里山、天六学舎の拡充計画、安井校友課長より拡充資金の募集情況につき説明があつた後議事に移り豊中支部の規約を可決、役員改選の結果安富支部長、榎原副支部長を再選、午後九時半閉会した。

当日の出席者

大学側

岩崎　学長　久井専務理事　安井校友課長

支部側

中務　平吉　吉川孝太郎　井上　巧
吉田　正義　竹村奈良長　宮田　武敏
増田　一雄　安富　敬作　大喜多正照
小林　良央　西　孝雄　豊田　謹造
菅原　一夫　榎原　武雄　中島　徳男
初山　彰一　仙波　漸　佐々木豊明

豊中支部

和歌山支部總会

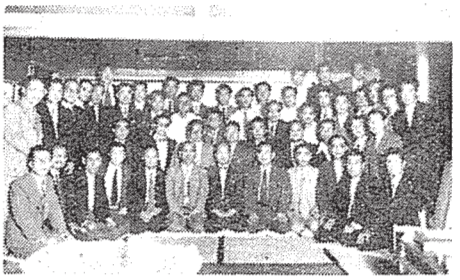
和歌山支部総会は六月二十六日午後五時和歌山市築地ちんや食堂に於て開催、事業報告、会計報告の後矢野常務監事より母校の近況及び将来の計画について説

明あり、全員母校発展に協力する事を申し合せ、午後九時盛会裡に散会した。

出席者

母校側　矢野常務監事　安井校友課長

支部側　荻原　森田　加藤　松岡　松林
北村　村田兄　太田　宮本　丸山
吉田　山本　木下　岩橋　高垣
佐々木　井本　三毛　辻本
橋本　白貫　新谷兄　藤原　亀井
石坪　新谷弟　登地　斉藤　松原
林　有本　島　宮本　磯田
鈴木　正田　竹中　堀　杷岡
羽田　橋詰　藤岡　小堀　朝比奈
岡本　和田　森畠　中谷　村田弟
前畑　以上五十名



和歌山支部

双龍会（昭十四専）総会

七月三日午後六時千日前歌舞伎座前アサヒビヤホール二階で双龍会総会を開催。

担当幹事井上隆、弓場晴男、田山久美諸氏の挨拶後、記念撮影をする。今度の総会は二、三日来の豪雨で出席者が意外に少かつたが、大いに近況を語り合いつゝ、宴半ばに学報の配布寄附金の申込もなし出席者全員母校に寄附の申込を行つた。

次期総会は丸尾実君担当有馬温泉で開催、母校より来賓を迎える予定

出席者

小松　邦男　弓場　晴男　田山　久美
馬川喜久三　早助　芳一　安部　彰一
榊原　良尚　丸尾　実　波田野福雄
井上　隆　坂本　龍夫

双龍会

校友会 教育後援会 旭支部 旭地區共催懇談会

関西大学創立七十周年記念拡充資金募集に関する標記懇談会は、大学側より安井校友課長出席の上、旭地区の校友並びに在学生父兄と共に懇談、左記日程により開催された。

一、七月三日（土）
清水小学校（旭区北清水町）
二、七月十日（土）
旭工業クラブ（旭区中宮町）
三、七月十一日（日）
古市小学校（旭区森小路八丁目）

千里山十期会

千里山十期会は昭和九年卒業後心斎橋のドンバルに於て毎月例集会を続行して居たが大東亜戦争酣となるにつれて中断の余儀なきに立到り、その後月日は流れ近々有志諸君の希望に依り一水会の名の下に愈々復活することゝなり、その初会を梅田新道のヤスノに於て開催した。時恰も七月七日午後六時（第一水曜日）星祭で頭のはげた者も多いが童心になつた気持で先づ、母校の矢野常務監事一水会発足の挨拶あり、次いで同期生の戦没者追悼式を九月上旬に能勢妙見山本滝寺に於て挙行の計劃等懇談し、午後七時半散会。尚今回名簿に記載なき左海氏が始めて出席した。

当日出席者

江里口春志　荻野　武男　河内　兼三
川並　秀雄　左海　伊和　野間　秀泉
長谷川清一　福岡　彰郎　藤木　操
松谷　連哉　森　知己　森　矜次
森下　善雄　矢野　文雄　中山　巌

関大五十経会（昭十三専経）総会

関西大学第五十期の専門部経済学科卒業生で組織されている五十経会は卒業後十七年振りで初めて総会が市内心斎橋通「不二屋」三階に於て七月十日正午から盛大に開かれ、会則及び左の役員を決めた。事務所は市内南区鰻谷仲之町三五日本生命心斎橋支部内電話（南）二、一二三におくことになつた。

出席者

代表幹事　平沢　農一（日本生命）
幹事　目俣　正三（才一石綿）
唐川　次夫（大阪鉄道管理局）
中村　正（安田信託）
北本　誠一（大阪朝日）
稲影治兵衛（大阪毎日）
佐藤　寿夫（大阪市教育研究所）
塚原　周（佐紀御陵）
中山　一義（協同紡織）
東田　広二（日本生命）
小田　忠弘（日本電通）

神戸市役所関大倶樂部結成総会

戦時中から途絶えたままになつていた、神戸市役所在職の職員をもつて結成する神戸市役所関大倶樂部は、山本鎮郎氏ほか発起人の熱意が実を結んで、去る七月十日結成総会を開催するにいたつた。

当日は折悪しく雨天であつたにも拘らず、会員は会場に当てられた神戸勤労会館に集い、今春母校を巣立つた新進の職員も交えて、参会者五十三名に及ぶ盛会ぶりで、山本発起人代表から結成にいたる迄の経過報告があり、続いて会則案の審議、役員の選出が行われ、初の会長に山本鎮郎氏以下別記の通り役員の決定を見た。

会長　山本　鎮郎
常任幹事　藤原　忠　中江　秀実　瀬郷　清市（会計）

（6頁下段に続く）

感謝録

別項記載の通り、母校創立七十周年記念拡充資金寄附を募集致しました処、その趣旨に御賛同下さいまして陸続左記の通り御寄附をいたゞきました、七月三十一日迄に拝受しました御寄附者の芳名を爰に録し、謹んで感謝の意を表します。

昭和二十九年七月三十一日

学校法人　關西大學

關西大學七十周年記念拡充資金寄附者芳名（七）

昭和二十九年七月三十一日現在（順序不同、敬称略）

一、篤志家の部

（才七回）

金百万六百四拾四円也　関西大学　第一高校父兄会

金百万円也　匿名氏

金五万七千五百円也　匿名氏

計　金貳百五万八千百四拾四円也

累計金七百四拾八万参千七百四円也

二、關係業者の部

（才七回）

金拾万円也　住友銀行天六支店

金壹万円也　塚田印刷株式会社

金壹万円也　株式会社　大丸

金壹万円也　楠井　文雄

金五千円也　久保木材株式会社

金参千円也　大倉山診療所

金参千円也　丸栄工芸株式会社

金弐千円也　島村　圭藏

金壹千円也　高石　秀夫

金壹千円也　躍泉堂

計　金拾四万五千円也

累計　金七百五拾七万貳千円也

三、校友の部

【1】地方支部

（イ）大阪支部　（才三回）

金壹万五千円也　四辻　詮（昭2大経才一、二回合計額）

計　金壹万五千円也

累計　金百九拾九万貳千円也

（ロ）川辺支部　（才四回）

金参千円也　中村　敏雄（明42専法）

計　金参千円也

累計　金貳拾貳万五千円也

（ハ）菅屋支部　（才一回）

金五万円也　武田藏之助（推　薦）

金参万円也　田辺由治郎（昭13大商）

金貳万円也　下条小野石衛門（明43専法）

金壹万円也　加屋　俊雄（推　薦）

金五千円也　井上為之助（寄志家）

金参千円也　山村鶴千代（昭14大商）

金弐千円也　竹谷　裕至（昭7専法）

金壹千円也　松田　秀彦（昭12専一商）

計　金拾貳万壹千円也

（ニ）香川支部　（才一回）

金壹万円也　馬場　五男（昭10大法）

計　金壹万円也

累計　貳百九拾七万七千円也

【2】職域会

（イ）近鉄百貨店関大会

金五千円也

計　金五千円也

（ロ）近鉄関大会　（才二回）

金壹千円也　西村　末昭（昭10大法）

計　金壹千円也

累計　金参千円也

累計　金参拾万壹千円也

【3】同期会

（イ）昭六会　（才七回）

金壹万円也　入江寅一（才一、二回合計額）

計　金壹万円也

累計六拾五万参千五百円也

（ロ）十期会　（才七回）

金五千円也　平尾　正雄

金五千円也　岸井源治郎

計　金壹万円也

累計　金四拾六万貳千円也

（ハ）昭七会　（才二回）

金貳万円也　蔭山　昇

金壹万円也　図師　親徳

金五千円也　前田　滝造

金参千円也　武田　太七

金参千円也　岸井　八束

金参千円也　行俊　喬

金参千円也　谷口奈良男

金壹千円也　竹内幸一郎

金壹千円也　高橋　良美

金壹千円也　益田　寅男

計　金五万円也

累計　金貳拾四万円也

（ホ）大三会　（才一回）

金壹万円也　松本芳太郎

金壹万円也　富田　貞雄

金五千円也　島　良司

金参千円也　佐古　信三

金壹千円也　萩野　義正

金壹千円也　内田　政一

金壹千円也　渡辺　兵治

金壹千円也　杉本　治作

金壹千円也　岡本　栄吉

金壹千円也　右田　忠吉

計　金五万壹千円也

（才一回）

金壹万円也　今里　達雄

金五千円也　弓場　晴男

金弐千円也　井上　隆

金弐千円也　辻　忠勝

金弐千円也　波田野福雄

金弐千円也　榊原　良尚

金壹千円也　久保　田弘

金壹千円也　馬川喜久三

金壹千円也　安部　彰一

金壹千円也　小松　邦男

金壹千円也　田山　久美

金壹千円也　丸尾　実

金壹千円也　早助　芳一

金壹千円也　石田　俊夫

計　金五万壹千円也

（才一回）

金壹万円也　今里　達雄

金五千円也　弓場　晴男

金弐千円也　井上　隆

金弐千円也　辻　忠勝

金弐千円也　波田野福雄

金弐千円也　榊原　良尚

金壹千円也　久保　田弘

金壹千円也　馬川喜久三

金壹千円也　安部　彰一

金壹千円也　小松　邦男

金壹千円也　田山　久美

金壹千円也　丸尾　実

金壹千円也　早助　芳一

金壹千円也　石田　俊夫

計　金五万壹千円也

（才一回）

【4】其の他の團体

関甲倶楽部　（才一回）

金拾八万円也　久井　忠雄（大14関甲）

金五万円也　西村治三郎（大11関甲）

金参万円也　長田　義一（推　薦）

金参万円也　増田富三郎（大11関甲）

金貳万円也　川上　敬逸（大12関甲）

金貳万円也　島田　藤平（昭15関甲）

金貳万円也　中巻　弘（大5関甲）

金貳万円也　中尾　善宣（昭5関甲）

金貳万円也　橋爪　亮一（大14関甲）
金貳万円也　山本　藤藏（大14関甲）
金壹万五千円也　三島　律夫（大8関甲）
金壹万五千円也　木戸　一郎（準会員）
金壹万円也　北川　保（大14関甲）
金壹万円也　北川喜八郎（昭3関甲）
金壹万円也　国田　栄一（昭16関甲）
金壹万円也　小林　順藏（大14関甲）
金壹万円也　国分　吉広（昭2関甲）
金壹万円也　郡　栄作（昭6関甲）
金壹万円也　鈴木　正男（大7関甲）
金壹万円也　高橋　節治（大8関甲）
金壹万円也　東耕　龍男（大12関甲）
金壹万円也　奈須野一郎（大14関甲）
金壹万円也　福原菊治郎（大14関甲）
金壹万円也　古市　実（昭14関甲）
金壹万円也　山口　重治（昭2関甲）
金壹万円也　山口　繁雄（昭3関甲）
金壹万円也　吉田　八郎（大13関甲）
金五千円也　浅野　泰秀（昭3関甲）
金五千円也　神吉　等（昭8関甲）
金五千円也　中村敏治郎（大7関甲）
金五千円也　藤本栄次郎（大13関甲）
金五千円也　山中　林三（大8関甲）
金五千円也　好井　喜道（昭14関甲）
金参千円也　岩田　利男（昭11関甲）
金参千円也　桑原　正安（昭27一中）
金参千円也　小枝　康益（昭23関甲）
金参千円也　小楽崎邦夫（昭27一中）
金参千円也　杉江　弘臣（大8関甲）
金参千円也　巽　正男（大15関甲）
金参千円也　高橋　猛（昭15関甲）
金参千円也　西川　静治（大15関甲）
金参千円也　西岡　宸（昭21関甲）
金参千円也　山本　義雄（昭26一中）
金参千円也　吉富　二郎（昭10関甲）
金弐千円也　井上　三郎（昭3関甲）
金弐千円也　木村　昌三（昭20関甲）
金弐千円也　広谷　七郎（大8関甲）
金弐千円也　松本喜代松（昭3関甲）
金弐千円也　森下　清（昭19関甲）
金弐千円也　山本　富和（昭21関甲）
金弐千円也　山本　和夫（昭21関甲）
計　六拾六万七千円也

【5】個　人

金五千円也　棚野　誠幸（昭16　大法）
金五千円也　中本　勇（昭12専二法）
金参千円也　山田　壽男（大10　専法）
金参千円也　今井　勝（昭5　専法）
金参千円也　山下　邦宣（昭8　大商）
金弐千円也　蔦川　毅（昭21　大法）
金壹千円也　佐藤　一夫（昭9専一法）
金壹千円也　田中　孝一（昭28学一経）
金壹千円也　田中　悌二（昭28学一法）
金壹千円也　森本　守夫（臨16専二法）
金壹千円也　高山　重則（昭28学一経）
金壹千円也　平田　安男（昭10専二法）
金壹千円也　二見　辰二（昭2　専法）
金壹千円也　足立　浩一（昭21　大法）
金壹千円也　松下　檀一（昭13　大法）
金壹千円也　上田　節三（昭25学二法）
金壹千円也　重松利喜久（昭27学二商）
金壹千円也　久保川顯一（昭22専一商）
金壹千円也　岡田　浩二（昭26学一経）
金壹千円也　阪口　篤美（昭27学二商）
金壹千円也　原田　統吉（昭21　大経）
金壹千円也　山本　明（昭21　大法）
金壹千円也　東口　洌（昭28学一法）
金壹千円也　井上太啓止（昭24専二商）
金壹千円也　山口　健治（大15　専法）
金壹千円也　辰己　良勝（昭20　大法）
金壹千円也　野村　惣次（昭22専二法）
金壹千円也　山下与太郎（昭6　専法）
金壹千円也　今西　利章（昭20専二法）
金壹千円也　藪野　柳男（昭22専二法）
金壹千円也　角所　紀（昭26学一政）
計　金四万六千円也
累計　金六拾四万參千五百円也
累計金六百四拾六万七千円也

四、教育後援会の部　（才七回）

金壹万円也　坂上　重弐
金壹万円也　赤土　浩三
金壹万円也　田中　善一
金参千円也　小山　政樹
金参千円也　富安　英作
金参千円也　阪本　政弘
金参千円也　前田　種吉
金弐千円也　浮田　政市
金弐千円也　板谷　辰子
金弐千円也　玉井傳之助
金弐千円也　足立　正
金弐千円也　岩堂　幾二
金弐千円也　三光寺博昭
金弐千円也　中西　忠雄
金弐千円也　植平　民二
金壹千円也　鈴木　正俊
金壹千円也　樋口　宗淳
金壹千円也　鶴谷重太郎
金壹千円也　大田垣英三
金壹千円也　竹中　茂治
金壹千円也　浜口　義一
計　金六万四千円也
累計　金貳百六拾七万六千七百円也

五、學校法人關西大學の部

評　議　員　（才五回）

金貳万円也　矢口　家治（才一、二回合計額）
金壹万五千円也　四辻　詮（〃　）
金五千円也　中村敏治郎
計　金四万円也
累計　金百四万円也

六、教育職員の部

【1】大　學

金參万円也　中谷　敬壽
金貳万円也　池田　栄
金壹万円也　鯰江　城夫
計　金六万円也
累計　金百七拾四万四千円也

【2】第一高等學校　（才二回）

金貳万円也　矢口　家治（才一、二回合計額）
金壹万五千円也　四辻　詮（〃　）
金七千円也　下島　光（〃　）
金七千円也　勝島　芳松（〃　）
金七千円也　藤本栄治郎（〃　）
金七千円也　川村　善助（〃　）
金七千円也　佐々木康雄（〃　）
金四千円也　富田恭二郎（〃　）
金四千円也　半井　清（〃　）
金四千円也　原　雄次郎（〃　）
金四千円也　平田　善明（〃　）
金四千円也　長谷川雅樹（〃　）
金四千円也　黒岩　博（〃　）
金四千円也　馬渡權兵衛（〃　）
金四千円也　奥村　二郎（〃　）
金四千円也　堀江　藤晶（〃　）
金四千円也　栗駒　正和（〃　）
金四千円也　中小路泰夫（〃　）
金四千円也　浜口　誠也（〃　）
金四千円也　渡辺多加二（〃　）
金四千円也　西岡　宸（〃　）
金四千円也　土部　弘（〃　）
金弐千円也　田中　昭平
金弐千円也　岩田　剛治
計　金拾參万四千円也
累計　金拾參万四千円也

【3】幼稚園　（才二回）

金壹千円也　田村　静香

關西大學擴充資金募集要項

一、予定金額　金五千万円
一、一口　金壹千円以上
一、御送金は銀行振込用紙を以て全国の左記関西大学取引銀行本・支店へ、或は振替貯金（大阪壹貳八七五番）又は御便利な方法で関西大学会計課宛御願い致します。
神戸銀行梅田支店・三和銀行天六支店・住友銀行天六支店・住友信託銀行本店
泉州銀行大阪支店・第一銀行梅田支店・大和銀行天六支店・帝国銀行天六支店
・日本勧業銀行梅田支店・安田信託銀行大阪支店（送金先銀行五十音順）
一、〆切期日は一応昭和二十九年十月七日と予定致します。
一、寄附者の氏名は、関西大学学報誌上に順次発表致します。

關西大學擴充資金募集は大藏大臣の承認した指定寄附金であります

今回大藏大臣より左記写の通り、本学拡充資金募集の寄附金について、法人税法第九条第三項但書の規定に該当する寄附金としての承認を受けました。普通の寄附金であると、法人税法第九条第三項本文によって、法定限度を超過した場合、その超過額はその法人の損金に算入されないから、法人所得に加算の上、課税を受けることになるのですが、本学の募集する寄附金は法人税法第九条第三項但書の「指定寄附金」の承認を受けているので、寄附者である会社その他の法人は、その寄附金については金額の如何に拘らず、これを損金として認められますから税金の対象にはならないのです。この指定寄附金は昭和二十五年大藏省告示第五一〇号第三号昭和二十六年大藏省告示第五五二号に該当するもので左の通りになっています。

「学校教育法第一条に規定する大学、高等学校、中学校又は小学校の敷地、校舎その他附属設備を施設する為に学校法人又は民法による財團法人に対してなす寄附でこれ等の法人が寄附金の募集について大藏大臣の承認を受けた日から一年以内に支出されたもの、金額」

近頃各種の寄附金募集が多いのですが、折角好意ある御寄附をした会社はこれを損金として経理処理しているのを、税務署では損金否認して利益加算し課税を受ける例は多いのですが、本学のは前述の如く大藏大臣の承認した「指定寄附金」でありますから、損金を否認される心配はありません。何うぞこの点、特に御理解を賜りとう存じます。

（寫）　蔵税第一八五〇号

昭和二十八年十月八日

学校法人　関西大学
理事長　白川朋吉殿

大藏大臣　小笠原三九郎

昭和二十八年九月二十二日附で願出があつた寄附金については法人税法第九条第三項但書の規定に該当する寄附金として承認する。

寄附金分類別集計表

昭和廿九年七月卅一日現在

種別	申込件数	申込金額
篤志家	六〇	七、四八三、七〇四・〇〇
関係業者	四〇	七、五七二、〇〇〇・〇〇
校友 地方支部	一六団体	二、九七七、〇〇〇・〇〇
校友 職域会	八団体	三〇一、〇〇〇・〇〇
校友 同期会	九団体	一、八八八、五〇〇・〇〇
校友 その他の団体	一団体	六〇七、〇〇〇・〇〇
校友 個人	一七〇	六四三、五〇〇・〇〇
校友 計		六、四七七、〇〇〇・〇〇
教育後援会	五三	二、六五六、七〇〇・〇〇
学校法人役員	一三	九五〇、〇〇〇・〇〇
評議員	四三	一、〇四〇、〇〇〇・〇〇
教育職員 大学	九七	一、七四四、〇〇〇・〇〇
教育職員 高一	二四	一三四、〇〇〇・〇〇
教育職員 中一	一七	七八、〇〇〇・〇〇
教育職員 幼稚園	五	五、〇〇〇・〇〇
教育職員 計	一四二	一、九六一、〇〇〇・〇〇
事務職員	二四一	一、〇〇二、九〇〇・〇〇
合計		二九、一六三、三〇四・〇〇
内重複額		三、七五二、〇〇〇・〇〇
差引合計		二五、四二一、三〇四・〇〇
収納額		一五、五〇四、三五九・〇〇
未収納額		九、九〇六、九四五・〇〇

計　金壹千円也
累計　金五千円也

七、事務職員之部

（才三回）

金五千円也　水野　富蔵
金参千円也　郡司　忠義
金弐千円也　三島　宣子
金弐千円也　天野美津子
金壱千五百円也　本橋　熱子
金壱千円也　川合　絹江
金壱千円也　辻　英子
計　金壹万五千五百円也
累計　金百万貳千九百円也
合計　金貳百八拾七万参千六百四拾四円也

累計　金貳千五百四拾壹万壹千参百四円也
（合計、累計は重複申込額を含まない、実寄附金額である）

昭和二十九年七月十五日発行
関西大學學報　第二七一號
編集兼発行人　大阪市大淀区長柄中通二丁目一二番地　久井忠雄
印刷所　大阪市北区川崎町三八　株式会社ナニワ印刷所　電話福川（七三〇二番　三一九三番）
発行所　大阪市大淀区長柄中通二丁目　関西大学学報局　電話堀川（35）一七五六番　振替大阪二六七七二番
年雑誌代実費三〇〇円（送料共）

關西大學創立七十周年記念
拡充資金募集趣意書

わが関西大学は、明治十九年河内町の一隅に、大阪に於ける唯一の法律学校として開校したのでありますが、爾来六十有余年校友先輩の苦心と不断の努力に依つて目覚ましい発展を遂げ、今や一万数千の学徒を擁する私学の雄として、自他共に許す一大学園となりました。其の間幾多の俊英を輩出して、文化の向上、国家社会の進運に大きな寄与をなし得たことは、われわれの深く喜びとするところであります。学園発展のために尽瘁せられたそれらの先輩各位に対しては深甚の敬意と感謝を捧げずには居られません。

日本は、漸く独立国家として出発しましたが、国家の前途は甚だ多難であります。わが国は今後、文化国家として世界文化に貢献すべきであります、またそれによつて友邦の信に応えなければなりませんが、そのためには、教育の振興こそ最も緊要な問題であります。

本校は、大学の崇高な使命を自覚すると共に、歴史と伝統に立脚して、よくその声価を揚げて参りましたが、真理の討究、学の実化という理想に向つて、益々邁進したいと思います。本学が新学制に基き、各大学にさきがけて、大学院を設置し、修士課程並びに博士課程を開講したのも要は、その意味において将来の飛躍的な発展を意図したからに外なりません。

本学は時代の趨勢に鑑み、曩に五ヶ年計画を樹て、諸施設の改善充実に着手致しました。千里山における大学院、大学ホール、経済学部商学部教室の増築等はその一環として既に竣工しましたが、なお計画中の事業で、しかも緊急を要するものが種々残されて居ります。即ち、使用上すでに危険な状態にある、千里山法学部文学部学舎の改築、二部学生を収容するための天六学舎の増築、学生に対する施設の一部として、千里山尚志館（学生食堂学友会部室）の増改築等でありますが、これらは逐次工事に着手し或は着工準備中でありますが、その大部分は、臨時的なもので、更に近代的設備を持つ研究室の新築を構想中であります。これらが竣工の暁には学園は全く面目を一新すると思います。

こうした外観の整備と相俟つて、特に重要なものは、大学の真価を決する教授陣容の充実であります。二十八会計年度においては教授十名、助教授八名、専任講師五名、助手十七名の増員を予定しましたが、その大半はすでに補充致しました。

教職員の待遇については、常にこれが改善に努め、本年度においても相当額の増俸を実施致しました。しかしなお現下の経済状態に即応すべき所期の目的を十分に達し得て居ないのを遺憾と致します。

教授陣容の充実と共に、研究用図書の完備も大切でありますが、この点についても目下鋭意努力して居ります。

さて、上記の事柄は、いづれも緊急を要するもののみと考えられますが就中、学舎の増改築は、最早一日も遷延を許しませんので、これを早急に達成するため、昭和三十年度に創立七十周年を迎えるのを機会に、その記念事業の一部として実施することに致しました。しかも、建築費だけでも総額約三億円を要するのでありますが、戦後の経済的混乱により本大学法人の経理も、種々困難な事情を加えており、従つて事業遂行の資金は、止むを得ず関係者各位その他の御援助により御醵出を仰がねばならぬ実情にあります。

大学の生命は不朽でありますが、学園の生々発展を希うためには、各位の学園に寄せられる深い愛情と熱意に俟たねばなりません。翼くは、学園の繁栄を念願する各位の御賛同を請い、この七十周年記念事業の完成を期したいと思います。各位の御賛同により本事業完成の暁には、学園はさらに新たな基盤に立つて飛躍的な発展を期し得ることを信じます。何卒御協力の程切に願上げます。

昭和二十八年十一月

関西大学学長　岩崎卯一
関西大学理事長　白川朋吉

創立七十周年記念事業学舎増改築概要

一、工事費総額約三億三千五百万円

二、工事概要

(一) 千里山法学部文学部学舎改築（鉄筋コンクリート造）
三階建　二千六百六十八坪　工費約二億六千四百万円

(二) 天六学舎増築（鉄筋コンクリート造）
五階建　三百七十八坪　工費約三千万円

(三) 千里山尚志館増改築（木造）二階建　三百二十一坪　工費約六百万円

(四) 関西大学第一高等学校の千里山外苑への移転新築（一・二階鉄筋三階木造）三階建　七百八十五坪　工費約三千五百万円